

PRESS RELEASE

【内容についてのお問い合わせ】

独立行政法人 国際協力機構 中国国際センター(JICA中国)
〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082
担当:中村

日本の粉炭技術をラオスへ！

島根の山本粉炭工業、JICA 調査事業に仮採択

粉炭が地球を守る。

この度、JICAの「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」に島根県益田市の有限会社山本粉炭工業（山本明男代表取締役）が仮採択されました。この調査は、途上国の課題解決につながりうる優れた製品や技術をもつ中小企業からの提案に基づくもので、製品・技術の途上国への活用可能性について確認・検証を行うための調査です。

同社は、“山仙プール式炭化平炉”と呼ばれる独自の窯を使った炭化技術を持ち、どんなバイオマス原料も一度に大量に、そして低コストで炭にできるのが最大の特徴。これまで廃材や木屑、竹屑などを炭化して良質な粉炭を製造し、燃料のほか、土壌改良や飼料、水質浄化、吸湿材等、様々な用途に利用されてきました。

土壌用粉炭



山本粉炭工業本社と炭化工場

粉炭の普及のため何よりも技術者の育成を大事にしている同社。国内のみならず海外からも積極的に研修員を受け入れており、今回の応募もラオスからの研修員の声がかきつけ。同社で研修を受けたラオスのエネルギー省職員から相談を受け、ラオスの現状をなんとかかしたいと応募に至りました。

ラオスでは、燃料として主に薪炭が使われていますが、煤煙による健康への悪影響や木材過剰伐採による森林減少が深刻な問題となっています。

同社は早ければ今年10月からラオスで調査開始予定。約1年かけてラオスでの炭化炉設置や炭の需給にかかる調査をはじめ、技術者育成を目指したラオス関係者への本邦研修も予定されています。

「現地の材料を使って、ラオスの人に粉炭技術を習得してもらい、資源の有効活用とラオスの森林保全に貢献できれば」と山本社長は意気込んでいます。

※この「案件化調査」は、JICAが実施する中小企業海外展開支援の1つで、2012年度から開始、2014年度は今年5月に公示を行いました。全国で176件の応募があり、26件仮採択。今後契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。採択企業の海外展開によって途上国への貢献と共に、日本国内、特に採択企業が所在する地域経済の活性化も期待されます。

以上

